

## 【長野県中野西高等学校】

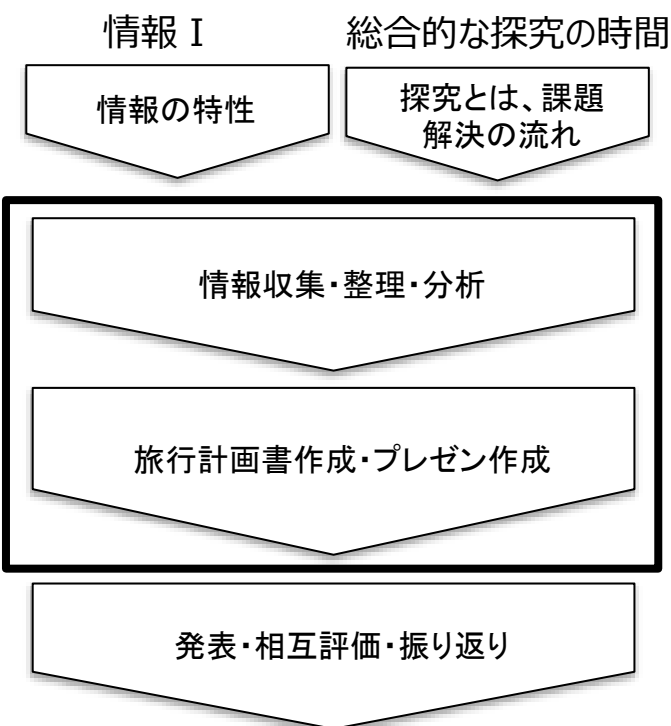
### 学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

「総合的な探究の時間」と連携し、修学旅行のコースを生徒主体で作成する「中西修学旅行プロジェクト」に取り組み、地歴公民科や理科などの他教科で学んだ知識を生かし、訪問先を深く教科横断的に探究し、学習を進めることで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し課題を解決する方法を身につける。

### 評価規準

- （知識・技能）情報と情報技術を活用した課題解決の方法について身につけている。
- （思考・判断・表現）目的に応じ効果的な情報の表現やデザインについて考え、伝えることができる。
- （主体的な態度）プロジェクトに主体的に参加し、より満足度の高いプランを班員と協力して作成しようとしている。

### 教科等横断的な視点での取組



- ・授業の展開状況（1年次）  
「情報Ⅰ」2単位 クラス単位で実施（情報科教員で担当）  
「総合的な探究の時間」1単位 クラス単位で実施  
（探究担当として1学年の先生を中心に各クラス2人で担当）
- ・総合的な探究の時間と連携  
修学旅行を生徒が主体的に計画する「中西修学旅行プロジェクト」を、「総合的な探究の時間」と「情報Ⅰ」が相互に連携して実施。  
→実践的な取り組みを通じ、問題解決の方法を身につける。
- ・教科横断的な学びの実現  
総合的な探究の時間と連携することで、他教科の先生も担当に入り、教科横断的な学びの環境を整え、学習の幅を広げる。  
→修学旅行のプラン作成を通じ、各地域の文化や歴史、地学的ななりたち、地域の産業体験など深く探究し、文理融合した指導を実施。  
→ユネスコスクールとして、プラン作成にあたってSDGsとの関わりを考えさせ、持続可能な社会の実現に向けた課題に取り組む（ESD活動）

## 【候補地をデータベース化（共同編集）】

表計算のWebアプリを用いるため、PC環境に依存せず実施可能



個別に入力欄を設け、同時に入力しやすくレイアウト

## 【旅行会社によるプラン作成のアドバイス】

旅行会社の方からプラン作成のポイントをアドバイス（全体）



探究の時間と連携することで探究担当（他教科）の先生も参加でき、教科横断的に指導ができる。（写真は体育科の先生）



グループワーク時は個別にアドバイス

## 「中西修学旅行プロジェクト」

### 【情報の収集・整理・分析】

- ブレインストーミング法で行きたい候補地を挙げ、表計算Webアプリで共同編集を行いクラス内、さらには学年全体で情報を共有する。
- 候補地の住所情報をキーにして、Web上でマッピングして「行き先候補地マップ」の作成・共有。
  - GIS化（データの視覚化し、見え方の違いを比較する）
- 情報収集では、Web検索だけではなく、オンライン会議アプリを用いて、現地の観光協会の方から説明会を実施。
  - 質疑応答の時間を十分に確保し、双方向のメリットを生かす。Web検索では分からない情報を得ることができた。（生徒感想）（Webの情報、現地の方の情報、情報の特性の違いを確認）

### 【旅行計画書の立案】

- これまで収集・整理・分析した情報から、旅行計画書を作成する。（「行き先候補地マップ」の活用。）
- 実際の旅行会社の方から講義やアドバイスをいただき、満足度の高いプランを作るポイントやアドバイスをいただく。
- 訪問地を選んだ理由を考え、各地域の文化や歴史、産業など教科横断的な学習を実施。
  - 例）水族館→水族館の役割、展示の工夫や特徴を探究する（理科や地歴公民科などの知識を活用）
  - サイクリング→体力や技術の見積もり、コースの地理的な見どころを探究（体育や地理の知識を活用）

総合的な探究の時間では、情報科以外の先生も担当として配置するため、教科横断、情報活用の両方を実施することができた。

(1) 情報社会と問題解決 「総合的な探究の時間」と連携

ア 生徒育成方針に則った学習指導

「ESD活動を通し、自主性をもって生きる力を育み、希望する進路の実現を目指す」という生徒育成方針に則った学習指導をするとともに、高校1年1学期の授業として扱っており、今後の高校生活で学ぶことに対する意識づけも行えている。

イ 情報Ⅰ発、教科横断的な取組

総合的な探究の時間と連携しているが、情報Ⅰの授業を行うことで歴史や地学など他教科の学びへと誘導している。